

事務局長	記録者
	

令和元年度 第2回大潟コミュニティ・スクール委員会 議事録

開催日時 場所	進行・記録	出席者・欠席者
令和元年10月10日（火） 18:30～19:30 大潟町中学校 会議室	進行 山岸 賢一 記録 西 健志	出席委員 ・長澤 英夫 ・井部 孝一 ・塚田 克俊 ・小山 彰 ・渡邊 英雄 欠席委員 ・土屋 美枝 事務局 ・山岸 賢一 オブザーバー ・弓納持 豊 ・小山 宏一 ・高橋 道代 ・平澤 栄一 ・中野 英康 ・渡辺 章雄 ・齋藤 友美 ・二宮 晃世 ・西 健志 ・南雲 民人 ・内藤 裕二 ・小山 将 ・柳沢 恵子 ・竹田 一昭 ・金子由美子
<p>議事内容</p> <p>1 開会 <長澤会長> ・7/18、10/4の2回の研修に参加。他校との情報交換の中で、大潟区は小中各1校ずつのメリットを生かし、うまくいっていると感じた。</p> <p>2 小・中学校長あいさつ <中野校長> ・地域の方から協力を得ながら、「どんど」（低学年「生活科」と中・高学年「総合的な学習の時間」の総称）の活動が充実している。 ・本日、市一斉あいさつ運動、校内マラソン大会があったが、子どもたちがよく頑張っていた。保護者、地域の方々からたくさんの応援をいただいた。 ・大変落ち着いて学習している。学力が最大の課題であるが、「授業が楽しい」というのが大切。教師の授業力向上を目指したい。</p> <竹田校長> ・部活動が一区切りついた。様々な大会で保護者の応援があった。リサイクルバザー、体育祭では地域の方から御協力をいただいた。 ・中1生は、多少の生徒間トラブルはあるが、比較的落ち着いて生活している。明日は、体験入学である。中1生の頼もしい姿を期待している。 <p>2 議事（議長は長澤会長） (1) 中学校からの説明及び承認 ・学校評価アンケートにおいては、「学校は楽しい」「いじめを許さない。他を思いやる」「学校行事に積極的」「保護者の理解」という点において、高い数値を示し</p>		

ていることがうかがえる。その一方で、「家庭学習の定着」「メディアとのかかわり」「規則正しい生活習慣」において課題がある。メディアとのかかわりから就寝時間が遅くなるようだ。バランスの良い食事については、保護者に協力をお願いする。

- ・学力向上については、家庭学習の充実を図っていきたい。3年生は受験に向けての学習、1・2年生は自主学習の推進。

《委員からの質問》

* 「いじめを許さない」が高い数値である。具体的な取組は何か？

→7月に「いじめを生まない集団づくり」の職員研修を実施。日常生活の中でのあたたかい集団づくりがベースになると考える。

・スマートフォンの所持率は？

→今年度はまだ調査していないが、年々増加傾向にはある。正しく使うための知識を教えることが大切だと考える。

(2) 小学校からの説明及び承認

- ・昨年度は、学校全体に落ち着かない状況にあったが、今年度は子どもたちの笑顔も多くみられ、落ち着いた雰囲気である。
- ・子どもに考えさせる、判断させる場面を作り出すことで、子どもが自主的、自治的に活動する力が芽生えつつある。そのことで、教師が褒める機会も増え、子どもが自己有用感を感じている。
- ・学校評価アンケートでは、児童が答えやすいように、分析をしやすいように、質問項目に若干の変更を加えてある。今年度も、これまでと同様の傾向が出ており、「メディアに関すること」と「家庭学習に関すること」に課題がうかがえる。家庭学習を「自分でやろう」とする気持ちが弱いことが、「メディアに関すること」にも影響している。粘り強く指導を続ける。
- ・学力向上については、日々、教師の授業力向上を目指して取り組んでいる。学校評価アンケートでは、「授業が分かる」の数値は高いものの、実態としては、学力の個人差は大きいと考えている。理解力の高い子どもと、そうでない子どもがそれぞれにしっかりと学ぶことができるように、授業を工夫する必要がある。

《委員からの質問》

- ・特になし

(3) いじめ防止基本方針について

【小学校からの説明】

- ・毎年、変更や更新を図っている。資料では、赤字で示している。
- ・仲の良い子ども同士の中でトラブルが生じる傾向がある。仲が良いからこそ、相手の子どものことが気になり、傷ついたり、傷つけたりする。
- ・自校肯定感も重視しているが、自己有用感を大切にしている。人の役に立つ喜びを経験することは大切である。清掃ができない日に、トイレのボランティア清掃を募集した。100人以上の子どもが取り組んだ。3年生以上の子どもを募集したが、1・2年生の子どももろうか掃除を始めた。
- ・金曜日の職員終礼で、子どもに関する「心配なこと」を伝達し合い、全校体制での対応を心掛けている。
- ・8月には、学級づくりの研修を行った。
- ・12/5には、メディア関連での取組を実施する予定である。子どもの、保護者も学ぶことのできる機会としたい。

《委員からの質問・意見》

* 「この」の表記を「個々の」に修正

* 「いじめを受けた児童とその児童に対する支援」という表現が分かりにくい。修正が必要である。

* いじめはどのくらいあるのか？

→9月末現在で9件。

* 一昔前、「学校にはいじめがない」という捉えが強かったが、今は変わってきた。どんどん見つけ、解消率を上げていくことが大切という捉えに変わっている。学校だけで解決しようとするのではなく、学校外からの協力を得ながら解決することが必要である。

→9件とは認知件数のこと。新潟市では、ちょっとした悪口もいじめと捉えている。当校では、職員で事実をもとに話し合い、協議して対応している。

* 親の関心を惹きたいがために、盗みやいじめをするというケースを聞いたことがある。家庭の教育が大切である。

* 5年生の授業に行った際に、ちょっとしたことでトラブルになるんだなあと感じたことがある。高校生の息子と話していても、子どもとの感覚に差を感じる。

【中学校からの説明】

・9月までの認知件数は11件。小学校と同様に、仲が良かったのに…というケースも多い。

・教科担任制の中では、パソコン上の回覧板を活用し情報共有を図っている。日ごろの学級生活は重要で、「係活動はみんなが平等にしているか」「班活動は心が通じ合えるような、かわりをしているか」をしっかりと見ていく。

・座席決めは、くじ引きで決めるのではなく、今は班長が決めるという取組を進めている。子ども自身が友達のことを気遣いながら責任をもって決めるようにしている。

《委員からの質問・意見》

* いじめの対応において、中学校も関係機関の中にCS委員会を入れてはどうか？小中共通の取組としていく必要があり、場合によっては、CS委員も対応に関われるようにしてもらいたい。

* 授業に入った時、「～さんがポツンとしていてかわいそうだから、自分たちで班を作っていい？」と聞いてきた生徒がいた。そのことによって、その生徒が元気になった姿を見た。大人が気付いていないところで、子どもは自分たちで考えて動くことができる。子どもの言うことに耳を傾けていきたい。

* いじめであるのか、そうでないのかの判断は難しい。先生方をお願いをするしかない。

5 事務連絡

- ・第3回は、2月の中旬予定。
- ・中学校「大野靖之ライブ」「吹奏楽部オータムコンサート」に御参加いただきたい。
- ・上越市「学び合いフェスタ」に委員の方もご参加いただきたい。

6 閉会のあいさつ（高橋副会長）

- ・11/16 コミュニティプラザでは、講演会と中学生のワークショップ発表会がある。奮ってご参加いただきたい。